



4月の花：ハナミズキ

事務所便り

令和5年4月号

特定社会保険労務士・行政書士 重村 勝弘
重村行政労務管理事務所
ご連絡先：〒235-0021
：横浜市磯子区岡村 7-8-15-102
電話・FAX：045-754-3412 携帯:070-5542-1466
E-mail：shigemura.office@etude.ocn.ne.jp

●中国・ロシア首脳会談 緊密な関係を誇示 軍事支援の言及はなし

中国の習近平国家主席とプーチン大統領との首脳会談がモスクワで行われ、両国の緊密な関係を誇示した一方で、ウクライナ情勢をめぐる具体的な解決策は示されなかった。



両首脳は2日間で、夕食もとりながら10時間以上にわたり、協議を重ねた。

会談後の共同声明では「両国関係は歴史上最高のレベルに達し、着実に成長している」として、両国の緊密な関係を誇示した。

中国は、ロシアが欧米から制裁を受ける中、ロシアからのエネルギー輸入を増やすなどしてロシア経済のライフラインになってきた。今後もこの協力関係に変わりがないことを示した。

また、プーチン大統領がICC(国際刑事裁判所)から戦争犯罪の疑いで逮捕状が出されロシアへの圧力が強まる中で、ロシアとしては中国を引き込み、国際的に孤立していないとアピールする機会になったと言える。

そして、焦点となったウクライナ情勢について共同声明では「責任ある対話が危機の持続的な解決を見いだす最善の方法だ。国際社会はこの点で建設的な努力を支援すべきだ」と強調したが、具体的な解決策は示されなかった。



プーチン大統領は共同記者発表で、中国が先月(2月)発表した対話と停戦を呼びかける文書について、「平和的な解決の基礎

となりうる」と述べた。しかし、欧米やウクライナ側にこの案を受け入れる準備は今のところないと批判した。

一方、欧米が懸念する中国からロシアへの兵器の供与については、具体的な言及はなかった。中国は、欧米からの制裁を避けるためロシアへの軍事支援に乗り出す動機はないとみられている。アメリカへの対抗を念頭に連携を深めることで一



致した両者だが、軍事支援をめぐる微妙な駆け引きが行われているとみられている。

●首相、前代未聞の訪問劇 最後は列車で…幹部も知らなかった極秘計画

岸田文雄首相がロシアによる侵攻が続くウクライナを電撃訪問した。外遊先のインドを秘密裏にチャーター機で発ち、最後は列車で現地入りする前代未聞の訪問劇だ。5月に広島である**主要7カ国首脳会議(G7サミット)**でウクライナ情勢が主要議題になることを見据え、首相自ら訪問を切望して実現にこぎ着けた。



首相はウクライナを訪問する機会を探り続けた。議長として臨む**G7広島サミット**は、ロシアのウクライナ侵攻が主要テーマになる。「ウクライナ問題に積極的に関与している姿勢をアピールできる」「現地を直接、見ているのといないのでは違う」。首相官邸や**外務省**内では、サミットで首相が議論をリードするには、自らウクライナの地を踏むことが欠かせないとの声が飛び交っていた。

ウクライナを電撃訪問した岸田総理は、ゼレンスキー大統領と首脳会談を行った。その後の共同記者会見のなかでゼレンスキー氏は、日本が議長国として5月に広島で開く主要7カ国(G7)首脳会議に、オンラインで参加する意向を明らかにした。

中国の習近平国家主席がロシアを訪問しているなかでのウクライナ訪問 ~国際的にも注目される。

ゼレンスキー氏は「日本がG7の議長国、さらに国連安保理の非常任理事国メンバーとして活動しているときに、岸田総理の訪問が実現したことを非常に嬉しく思う」と述べました。折しも中国の習近平国家主席がロシアを訪問している最中であり、国際的にも注目された。

特に侵略者に対して自由主義を守るため、徹底抗戦を指揮するゼレンスキー大統領を激励する岸田総理と、侵略者で戦争犯罪人に指定された



プーチン大統領を訪問した習近平国家主席との対比は国際社会で大きな反響を呼んでいる。

(写真は虐殺地プチャで献花する総理)

●ウクライナにイギリスやドイツなどの戦車到着 軍備の強化進む

ウクライナには、イギリスの主力戦車など各国の戦車が續々と到着して、軍備の強化が進んでいる。

ウクライナのレズニコフ国防相は27日、自身のSNSでイギリスの主力戦車「チャレンジャー2」などを受け取ったことを明らかにした。



チャレンジャー2戦車
乗員:4人(ウクライナ軍の主力戦車より1人多い)
装甲:チョバム/ドゥーチェスター(直撃弾の貫通を防ぐ)
重量:64トン(ロシアの同レベル戦車より重い)
戦車砲:NATO製120mm砲弾を使用
出典:BBCイブニング・ニュース

レオパルト2

乗員:4人(ウクライナ軍の主力戦車より1人多い)
重量:67トン(ロシアの同等戦車より重い)
装甲:多重複合装甲
主砲:NATOの120mm砲弾を使用



出典:BBCイブニング・ニュース

レズニコフ国防相は「1年前には、パートナーの支援がこれほど強力なものになるとは誰も考えられなかった。ウクライナは世界を変えた」と書き込み、欧米の軍事支援に感謝の意向を示した。

ウクライナへの軍事支援をめぐって、ノルウェー軍は20日、8両の「レオパルト2」がウクライナに配備されたと発表している。

また、ドイツは27日、18両の「レオパルト2」を引き渡したと明らかにし、ウクライナ軍の軍備の強化が進んでいる。

今後、戦闘車両に続いて戦闘機の提供も進んでおり、4月から5月にかけて行われるウクライナの反転攻勢に使用されるものと思われる。

一方、ウクライナのゼレンスキー大統領は27日に公開した動画で、南部のザポリージャでIAEA=国際原子力機関のグロッシ事務局長と会談し、ロシア軍が占拠を続けるザポリージャ原子力発電所の安全性などについて話し合ったことを明らかにした。

このなかでゼレンスキー大統領は「ロシア軍によるザポリージャ原発の占拠が長引くほど、ウクライナとヨーロッパ、そして世界の安全への脅威が大きくなっていく」と述べ、原発の安全確保にはロシア軍の撤退が欠かせないと訴えた。

●ロシア、日本海で超音速巡航ミサイルの発射訓練 100キロ先の目標命中と発表



ロシア太平洋艦隊の船が日本海で巡航ミサイル「モスキート」を発射=28日

岸田首相のウクライナ訪問及び米韓の大規模軍事演習に対応する形で、ロシア国防省は28日、太平洋艦隊が日本海で超音速ミサイルの発射訓練を実施したと発表した。

国防省はSNS「テレグラム」への投稿で、ミサイル艇2隻の合同演習を行い、巡航ミサイル「モスキート」2発が、敵の軍艦を想定した100キロ先の目標に命中したと述べた。モスキートは120キロ離れた船を破壊することが可能とされる。

また、ロシア軍は今年、日本海での演習で潜水艦から巡航ミサイル「カリブル」を発射し、1000キロ以上離れた陸上の目標に命中させたと発表した。岸田文雄首相がウクライナを訪問した日には、核搭載可能なロシア軍の戦略爆撃機2機が日本海の上空を数時間にわたって飛行。ロシア当局は事前に計画していた飛行だと主張した。

ウクライナ方面の戦況が思わしくなく、極東方面からの戦力転用も行われており、戦力低下のカモフラージュとみられている。

●リーマンショックの再来の心配はないか？

米国においては3月10日シリコンバレー銀行が破綻し、シグネチャー銀行も破綻した。

スイスの大手銀行、クレディ・スイス銀行も破綻した。また、ドイツ銀行の経営も危険水域に入っている。

また、欧米の銀行株も大幅に下落している。

このように銀行の破たんが相次いでおり、世界の金融界の不安がくすぶっている。

2008年に生じたリーマンショックのような世界的な金融崩壊が来るのではないかと心配されている。



米国発の今回の騒ぎは

1. 米国の急激な利上げに伴う債権の急落
2. 債権を多く保有する銀行の経営悪化
3. SNSによる情報の拡散と取り付け騒ぎが原因であるといわれている。

米国政府は預金者の資産は全額保護すると発表したため、それ以上の金融不安は拡散していない。

しかし、米国の利上げの原因であるインフレが収まらない限り、このような状況はいつ起きてもおかしくない。

欧州では銀行株の暴落が続いており、金融市場の乱高下が続いている。

これら金融市場の混乱が、日本へ影響を及ぼすことも注意しておく必要がある。